

富士見^{たもん}多聞

建築年 未詳

木造 平屋建 本瓦葺 建物の高さ 約6.3m

櫓下石垣の高さ 約19m 延面積 155.17㎡

(明暦3年(1657)の大火で焼失した慶長11年(1606)頃創建の多聞を
万治2年(1659)に再建したものか?)

大正12年(1923)関東大震災で損壊

大正14年(1925)復旧

昭和43年(1968)解体修理

〔多聞〕

多聞とは、城郭の石垣上に建てられた長屋で、城壁よりも強固な防御施設でした。日本各地の城にあった多聞の中には、武器、諸道具、文書等の収蔵庫として使われた例もあり、平時には、多様な用途に使用されていたようです。



富士見^{やぐら}櫓

建築年 万治2年(1659)

木造3階建 建物の高さ 約16m

石垣の高さ 約15m 延面積 323.08㎡

(明暦3年(1657)の大火で焼失した慶長11年(1606)頃創建の櫓の再建)

大正12年(1923)関東大震災で損壊

大正14年(1925)復旧

昭和42年(1967)外壁等修理

〔櫓〕

櫓とは、城郭の隅や城門の上などに設けられた、見張りや防御のための施設です。多聞と同様、平時には収蔵庫等、多様な用途に使用されたようです。

江戸城の富士見櫓は、明暦3年(1657)の大火で天守が焼失した後は、天守の代用の役割を果たし、この櫓から、将軍が、富士山、両国の花火、品川の海などを眺めることもあったとされています。

